

合格体験記 (2023 年度入試)

【進学先】鳥取大学 工学部 社会システム土木系学科 (国公立・総合型選抜)

私が鳥取大学を第一志望に決めたのは高校 2 年生の夏ぐらいだったと思います。大学ではインフラシステムについて学びたいと考えていたので、それについての研究室があるこの大学に決めました。

割と早い段階で志望校は決められたものの、受験勉強はすぐには始めませんでした。なので、高校 3 年生になってみて、模試の結果を見て不安に感じ、進路フェスを開いていた先生に相談したところ、総合型選抜と言う入試方法がある事を知り、総合型選抜で受験することに決めました。

私が総合型選抜を受けるにあたって、もっとうまそうしてあげばよかったと感じる事があります。それは、高 1, 2 年で定期テストをもっと真面目に取り組めばよかった事です。理由は、全てに当てはまる訳ではありませんが、評定平均が A 判定(4.3 以上) でなければ国立の推薦が受けられないからです。総合型選抜はどんな評定でも受けることができる試験ですが、総合型選抜の後にある学校推薦には、評定が A 判定である必要があります。学校推薦が受けられないと、総合型選抜一本で行くことになるので、落ちた時に一般入試に切り替えなくてはなりません。自分は学校推薦の出願資格を満たしていなかったので出願できず、苦労しました。評定に関しては受験生になってからはどうする事もできないので、進路がまだ決まっていな人ほど、入試方法の選択肢を増やす為にも、定期テストだけは頑張ってみてほしいです。

逆に、やっておいて良かった事は、英検 2 級の取得とボランティアなどの活動です。志望理由書を書く時や面接で非常に役に立ちました。

最後に、総合型選抜は一般入試と比べて、学力以外も評価対象となるので、自分の強みがあれば、合格するチャンスが誰にでもあります。テストの点数や模試の結果が悪いという理由で自分を低く評価せず、色々な方法で自分が行きたい大学に挑戦してみてください！

【進学先】愛知教育大学 教育支援専門職養成課程 心理コース (国公立・一般前期)

私が大学受験でやったこと

- ・スマホゲーム、テレビゲーム、連絡ツール以外の SNS、漫画を全て封印した
- ・大学のパンフレットをしっかりとチェックした
- ・総合型選抜で私大の第一希望をおさえた
- ・共通テストの勉強を頑張った
- ・共通テスト本番ではマークシートをとにかくうめた
- ・先生方の協力のもと二次試験の総合問題対策を最後まで諦めずに頑張った

共通テストではマークシートをほとんどうめて、数学や国語では過去最高点だったにもかかわらず E 判定でした。こんなにぼろぼろだった私が合格できたのは、先生方の協力と最後まで諦めなかった気持ちのおかげだと思います。みなさんも行き詰まってどうしようもないときや困ったときは

先生に相談してみてください。必ずみなさんの力になってくれると思います。それと、最後まで諦めずに受験を頑張れたのは、部活動を最後まで頑張ったからだと思います。受験を始める前に今自分がやっていること・やりたいことを精一杯やって、悔いを残さないように過ごすことが大切だと思います。

また、みんなが快適な受験生活を送るために学校での態度は気をつけた方がいいです。特に、合格発表の頃はみんなそれぞれの思いを抱えています。まわりに配慮ができるかっこいい受験生になってください。それと、大学のパンフレットはしっかり確認してください。すごく有益な情報が載っている場合があります。私はパンフレットから総合型選抜の受験方法を見つけていなかったら私大に合格していなかったと思います。だからしっかり読んでください。

私は普段から真面目に勉強していなかったのですが、積み重ねがなくてすごく苦労しました。勉強はやくはじめることをおすすめしますが、私はこの受験でひとつ確信を得たことがあるので最後に書きます。勉強は量より質だと思います。私はとにかく一生懸命勉強すれば頭がよくなると思っていましたが、共通テストの結果からわかるようにそれではだめでした。頭を良くするには自分には何が足りていないのかを考えて勉強するべきです。だから、みなさんは早く自分に合った勉強方法を見つけて意味のある勉強をしてください。頑張ってください。応援しています。

【進学先】立命館大学 文学部 人文学科 国際文化学域（私立・一般選抜）

とても短いですが、私が合格体験記を通して皆さんに伝えたいことは3つあります。

1つは、英語の資格をとっておくことです。英語資格を持っていると、大学によっては、英語の点数に加算されるなど、受験で有利になることがあります。そうでなくても、英語の勉強になるし、取得出来たら達成感があり、自信につながります。3年生になると英検の勉強に割ける時間が減るので、個人的には1年生のうちからとっておいたほうが良いと感じました。

もう1つは、粘ることです。やりたいと思うこと、行きたいと思える学校、なりたいと思えるものに出会えたら、その気持ちを大切にしてください。遠回りしたり、一休みしたりしながらでも大丈夫だから、それを叶えたいという気持ちをごまかさずに、「頑張ろう」と思い続けることが大切だと、私は思います。頑張ったことはちゃんと身につけています。自信をもって、一步一步夢へ向かって歩いて行ってください。

最後の1つは、楽しむことです。高校生活、勉強でもそれ以外でも、辛いことや苦しいことがたくさんあると思います。ですが、とりあえず楽しんでください！こんなに勉強するのはこれで最後かもしれないし、クラスで過ごすことも最後かもしれない。「高校生」でしか経験できないことはたくさんあります。一度しかない高校生活、勉強も部活も学校行事も、後悔がないよう思いっきり楽しんでください！

【進学先】藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科（私立・一般選抜）

大学受験を通して、私がやってよかったと思ったことと、もっとこうすればよかったと思ったことをまとめようと思います。

まずやってよかったと思ったことは、部活を引退してからすぐに図書館に通い、勉強し始めたことです。そこでちゃんと真面目に勉強できていたかと聞かれると、正直あまり出来ていなかったなとは思いますが、机に向かって勉強するという習慣は身につきました。したがって、最初の段階では、勉強する気が起きなくても、とりあえず椅子に座って、教科書をだして、ペンを握ってみると良いと思います。全然集中できなくても、その姿勢をとることに意味があります。そのうち勉強に身が入るようになるので、勉強する習慣がまだついてないという人はぜひやってみてください。

また、本をたくさん読んだことも効果的でした。特に国語の共通テストは、文章量が多いため、文を読むことに慣れていないと、読み解く以前に読むこと自体で苦勞するだろうと思われれます。逆に、読解力のある程度身につけていれば、現代文に関しては、漢字を覚えて語彙力を増やすだけで、共通テストで7割は取れると思います。難しい本を読めとは言いません。自分が興味を持てるような内容の簡単なものでいいので、隙間時間を使って読んで、文章を読むことに慣れておくと良いと思います。

次に、もっとこうすればよかったと思ったことについて話します。まずは、英単語を覚えるのにターゲット1900を使ったことです。難関私大や国公立レベルの大学をめざしている人はターゲット1900が良いと思いますが、共通テスト、中堅レベルの私大を目指している人は、ターゲット1900レベルまで覚えなくても良いと思いました。

英語の勉強をするのに、単語を覚えるのに時間を使いすぎるのではなくて、英文の速読の練習に時間を使うべきだったのです。

特に英語の共通テストでは、とにかく英文が長く、時間もあまりないため、1分1秒が命取りになってきます。難しい単語が分からなくてもなんの問題もありません。もちろん、語彙力があるに越したことはないのですが、余裕があるなら1900まで覚えても損は無いはと思いますが、そうでないのなら、単語は基本～標準レベルをしっかり抑えて、そのあとは速読の練習に徹すると良いと思います。

そして私が1番後悔していることは、入試後に気を抜いたことです。最近の傾向として、複線入試を盛んに取り入れている学校が増えていることが挙げられます。実際藤田も、2022年から2023年の間に、一般公募推薦の定員を30人から35人に枠を増やしています。この傾向から、複線入試を受ける受験生が増えるだろうということが予想されますが、これから複線入試を受ける受験生の人達に声を大にして言いたいのは、絶対に最後まで油断するな、ということです。私は藤田の公募推薦入試を受けました。藤田の公募推薦入試は倍率があまり高くはなく、3倍もいかないほどでした。およそ2人に1人が受かるという確率のなか、私は小論文と面接の練習をとっても熱心に取り組みました。最終的にはどちらも自分が満足いくレベルまで完成度をあげることができ、準備万端の状態ですべて試験を迎えました。当日、特に焦ることも無く試験を終え、小論文も面接も手応えを感じていました。正直、受かったな、と思いました。そこから私は気が緩んで、公募推薦入試日から公募推薦合格発表日までの間、勉強に全く身が入らず、もし受かってたらあそこに行こう、これをしよう、など、浮ついたことばかり考えていました。しかし、実際の結果は不合格。とてもショックでした。誰よりも努力した自信があったし、それなりに手応えも感じていたので、結果を受け止めるのに時間がかかりました。ここで私は、最初から一般を目指して必死に勉強してきているライバルたちと、

大きな差をつけられたと感じました。たとえどれだけ自信があっても、合格発表のその日までは必死に勉強すべきだったのです。これが私の受験における最大の失敗だったと思います。そこからは、不合格を知ったその日から自習室に行って、平日は6時間、土日祝は10時間勉強して、生まれてしまった大きな差を少しでも埋めようと必死でした。結果受かったからいいものの、もし落ちていたら、この気が緩んでいた時期の自分を一生許せないでしょう。みなさんには同じことはして欲しくありません。複線入試はとても有用な手段であるため、受けない方がいいとは言いません。むしろ少しでも可能性があるなら受けておいた方がいいと思います。しかし、どんなに自信があっても手応えを感じていても、油断だけは絶対にしてはいけません。合格発表が出るその日まで必死に勉強し続けてください。

さて、ここまでつらつらと書き連ねましたが、受験において1番大事なことは、諦めない心をもつことだと思います。

私は、1年生の頃、赤点を何枚も取るような劣等生でした。勉強する習慣なんてなかったし、毎日遊んでばかりでした。3年生の7月に受けた藤田の模試の判定がE判定で、ここでやらなきゃまずいと思い、気を奮い立たせて夏休みから本格的に勉強し始め、最終的にはA判定、B判定を行ったり来たりするくらいの学力を身につけることができました。何度も、滑り止めに受かることさえ出来たらいいや、と思いました。しかし、そこで折れずに勉強し続けたからこそ受かることが出来たと思っています。今、成績が良くないからといって、目標を下げたりしないでください。頑張ればどこまでだって上っていきます。行けるところではなくて行きたいところを目指してください。みなさんが受験が終わった時に笑っていただけることを祈っています。

【進学先】法政大学 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科（私立・一般選抜）

先だって受験を振り返って私にはとても後悔したことがあります。それは勉強を始めるのが遅すぎたということです。恥ずかしながら私が受験勉強を始めたのは3年生の7月でした。遅すぎると思う人がほとんどだと思います。もっと早く始めればよかったと思わなかったことはなく、実際に遅れを取り戻すことはとても大変でした。受験生活を振り返るとネガティブなことの方がはるかに多かったです。しかしこれは合格体験記なのでここからは前向きなことを書きたいと思います。

まずは私の経験から受験勉強を始めるまでにやっておいてよかったことについてです。それは英検の勉強です。私は1年生の秋頃、準2級から勉強を始めて2年生の冬に2級を取得しましたが、この時の英検に向けた勉強がなければ私の大学合格は間違いなくなかったと考えているほど英語の基礎的な勉強は大切だと思います。入試で資格を使えるからということよりも、まだ受験生ではない時期において英検という目標をつくることはとても有効なことだと思います。単語がわかるだけで長文を読んだときにてんで意味が分からないということはよっぽどありません。ぜひ今日からはじめてみてください。きっと結果は大きく変わると思います。

次に、合格・進学までのイメージを持って勉強に励んでほしいと思います。合格までのイメージでいえば、どのくらいの学力があれば合格するのか、客観的に今の自分の成績はどうなのか、いつまでに何ができていなければならないのかというようなことを日々イメージして勉強することが不可欠だと思います。次に進学の面です。私は大学でスポーツに関することを学びたいという目的を

持って勉強していましたが、自分がなぜその大学・学部を志望しているのか分かって勉強するのとただ大学に行ければいいというだけ、はたまた何も考えずに勉強するのでは日々の意欲に大きな差が出ると思います。そのためには早いうちから自分は何に興味があるのか、将来どんなことをしたいのかということを考えるようにするといいと思います。

【伝えたいこと】

- ✓ 受験は情報戦というのは本当です。受験に必要な資格は？科目は？配点の比率は？などなど自分が受験する学校についての情報は少しでも多く持つておくことをおすすめします。また、解かなくてもいいので、過去問には目を通しておきましょう。例えば国語においていえば漢字はどのくらいでいいのか、文学史の出題はあるのかといったことは解かなくても読み取れると思います。時間は限られているので、どんな力を求められているかを理解し、力を入れるべき点を見極めて勉強していきましょう。
- ✓ 睡眠時間は絶対に確保しましょう。これを削っていいことは絶対にひとつもありません。
- ✓ 模試は真面目に受けましょう。提出日に教室で友達の解答を写している光景をたくさん見ましたが、この上なく無駄なことです。今の自分の位置を客観的に知ることができる機会は貴重なものです。
- ✓ 公募推薦入試を視野に入れてみるでもいいと思います。第一志望の大学を受験できるのであればそれだけ可能性が広がりますし、表現が悪いかもしれませんが滑り止めの進学先をひとつ持っているだけで、その後の精神的負担はとて軽くなると思います。もちろんお金はかかりますが、私の経験からも、絶対に落ちられないと勉強に追われるよりも、挑戦しようと勉強に追われるほうがいいと思います。しかし、公募推薦入試はあくまで受かったらラッキーくらいにとらえておくのがいいと思います。
- ✓ 適度な息抜きも大切だと思います。日々のリフレッシュはもちろんのこと、私は旅行が好きなので夏の終わりや共通テストの後などの節目で旅行に行っていました。少しやりすぎだったと自分でも反省していますが、このリフレッシュによって先の勉強への意欲を強く、新たにすることができたと思っています。
- ✓ 学校生活は全力で楽しんでおくことをおすすめします。文化祭やその準備、日々の休み時間などあの時もっと楽しんでおけばよかったと思っても遅いです。もちろんバランスやその後の切り替えは大切ですが。
- ✓ 悩みを相談できる人はいますか？先生でも家族でも誰でもいいと思います。いざという時にそういう存在はおおきいものだと思います。

【最後に】

私の単位習得すら危うかった1、2年生の学校の成績や3年生夏までの模試の成績を見て志望校に心から、現実的に合格すると思っていた人は自分を含めてもいなかったと思います。しかし合格することができました。自分は勉強できないからと腐ることなく今できることを頑張りたいと思います。

試験当日、緊張する自分を「ここまでやってきたんだから。」と落ち着かせることができるように勉強を頑張りたいと思います。健闘を祈っています。